

第6回勝山市立幼稚園のあり方検討委員会 議事録(要点記述)

日 時：令和4年11月24日(木)午後7:30分～
場 所：教育会館 3階 第5研修室

会長(あいさつ)

今回は、答申の内容の検討になる。勝山市の子どもたちの未来につながるような検討会になるよう、よろしく願いたい。

事務局

○第5回の検討委員会(保育園と合同)内容確認

- ・協議を踏まえ方向性としては、廃園はやむを得ない。
- ・時期は、保護者の意見を踏まえ適切に判断していく。
- ・勝山市の幼児教育の充実を図る。
- ・教育長から、来年度の機構改革の報告。

○答申(案)の内容説明

- ・別紙資料

会長

ただ今の説明および答申(案)の内容について意見をお願いしたい。

(特に発言なし)

意見がないようなので、皆さんの思いは一緒ということによろしいか。では、この案を答申として報告することにご了承いただいたとさせていただきます。

この半年間、様々なことを検討してきた経過や感想を順に願いたい。

委員

幼稚園のことをこの検討委員会で勉強させてもらった。今後の勝山市の幼児教育に関して、しっかりとまとめてほしい。幼稚園の保護者のことや園児のことは気になる所ではあるが、見守っていききたい。

委員

前回の中部幼稚園の統廃合の時は、保護者として検討委員会に参加することはなかったが、今回は参加することができ、保護者としての意見を伝えることが出来た。保護者として、幼稚園がなくなることは淋しいが、これからの勝山市の子どもたち全員が笑って暮らしていけるようにしてほしい。

委員

改めて1年生の子どもたちを、いろんな角度から見られるようになった。たくさん園からドキドキしながら入ってきた入学式に比べると、今の1年生は、色々な友だちと関わりながら、すごくたくましく、すごく賢くなっている。その姿を見て、色々勝山ならではの特徴があればいいと思う。この答申の中で、「新しい体制を作り」という部分では、今後大変だと思うが、是非勝山にあった素敵な体制を作ってもらえると嬉しい。

委員

やはり、廃園をしなくてはいけないという形になり、廃園を受け入れなくてはいけない保護者のことを思うと一番心が痛んだ。勝山市の子どもとしての在り方をもう一度見直していかなくてはいけないと思う。教育委員会は認定こども園の指導をしていくということを、真摯に受け止めながら、しっかりと勝山市の子どもの全体を考えて進めていかなくてはいけないと思う。私立のほうも、問題は山積みである。子どもが少なくなるということは、財政的にも苦しくなるということになる。子どもたちも、少しずつ昔と違い変化してきているので、対応に苦勞している。コロナのこともあり、そこに追い打ちをかけた状態であるが、一生懸命に保育の質を低くしないでやっというところと皆で考えている。精一杯、子どもたちのためになるように保育を整えていきたい。

委員

私の中では、廃園というのはショックが大きくて、どうかして残せないかとまだ考えている。今後、答申もまとめられていくということだが、時期がはっきりしていないということで、これからも保護者や子どもたちに寄り添い、気持ちを大事にして決めていってほしい。しかし不安なのは、国の方針で18歳までの子どもを、保健師が担当して支えるというニュースを見た。保健師は福祉のほうになる。

福祉と教育がどれだけ太いパイプで結びあい、子どもたちを育てていく支援をしていけるかが不安である。勝山市全体の教育ということで大変だと思うが、何か私にお手伝いが出来たらと思いつきながら見守っていきたい。

委員

中部幼稚園がなくなる時に区長をしていた。その時も反対をしていたが、南幼稚園もこのような形になり、公立の幼稚園が廃園になるのに2回も関わってしまったことを、死ぬときに後悔しないか心配している。

来年、息子が東京から帰ってくる。そこで、孫がいずれ認定こども園でお世話になると思う。その時の送り迎えが私の仕事になると思う。その時に見せていただき、充実して良かったなと思えるような認定こども園の形を作ってもらったら有難い。皆さんの意見も聞け、大変良かった。

副会長

主任児童委員という立場から、南幼稚園には何度か園の様子を見に行っている。子どもたちは、みんな元気で良いと思っていたが、これだけ少子化が進むと人間関係の面で、答申の中に

もあるようにしょうがないのかと思う。私自身も南幼稚園の卒園者であり、廃園を淋しく思う。将来に向けて子どもたちの教育を考えた答申にしてほしい。

会長

少子化の時代に先駆けて、勝山市の対策として組織を構築するということを聞いた時には、勝山市が全国にリードするような、保育・教育の質を高めるような組織を立ち上げるということを嬉しく思っている。

全国で模範となるような質の高い保育・教育をお願いしたい。

事務局

検討委員会は、本日で最終となる。答申については、先ほど説明した内容のようにしていく。若干微調整はあるかもしれないが、その時は会長と事務局に任せていただきたい。

答申は、12月中をめどに考えている。

事務局（御礼）

6月の第1回より本日まで、色々な立場からの意見をいただいた。これまでの協議に関して、感謝している。答申の内容は、再度確認したうえで会長からいただく形になる。その後は事務局のほうで検討し、廃園の時期を決めていく。来年度からの機構改革も公表し、福祉部局から担当の係が教育委員会に来て一緒に仕事をする。ただ、くっつくだけでは全然駄目である。仕事の内容は、保育園・こども園の仕事の人が中心になるが、0歳児から18歳までの支援をしっかりとしていくことが重要になる。福祉部局と一緒にやっていくということは、教育委員会として初めてのことである。そのことに対してしっかりと研究もし、4月からスタートできるような体制にしていきたいと考えている。

私自身も成器南幼稚園の卒園者であり、父母の会の会長もした。子どもも南幼稚園でお世話になったので、個人的には淋しい思いである。ただ、立場上色々な角度から全体を見ることに心がけ、今回、このような方向性を出してもらった。それについては真摯に受け止めて、しっかり思いに答えられるようにしていきたい。今後ともよろしくをお願いしたい。

副会長（閉会のあいさつ）

半年があつという間であった。これまでこれたのは、委員の皆さんの協力の賜物である。今後、答申が無事終わってもらいたいと思う。

これをもって検討委員会を終了する。